

科目名	救急救命処置概論Ⅰ			授業の種類	講義	講師名	
授業回数	8回	時間数	15時間 (1単位)	配当学年・時期	救急救命士科1年	前期	必修・選択 必修
〔授業の目的・ねらい〕							
救急救命士が現場で行う観察および現場活動の基本を理解できる。 緊急度・重症度の判断力を身につける。							
〔授業全体の内容の概要〕							
生理学的機能 意識障害の評価法 観察 測定方法の実際 症状別に疾患を説明～特徴主たる観察ポイント緊急処置等							
〔講師の実務経験〕							
徳島県鳴門市消防本部にて救急救命士として17年間勤務							
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕							
問診、正確なバイタルサインの測定、全身所見の観察から生理学的評価、解剖学的評価に基づき、的確な判断ができる。 傷病者の緊急度、重症度を判断し、適切な医療機関選定ができる。 これらを踏まえ、今後のシミュレーション実習に活かす事ができる。							
回数	講義内容						
1	観察の目的と意義、バイタルサイン						
2	観察の方法、問診の方法						
3	観察の方法（視診、聴診、触診、打診）						
4	現場活動の基本（状況評価、初期評価、緊急度と重症度）						
5	現場活動の基本（全身観察、重点観察、車内活動と搬送）						
6	気道、呼吸、循環、神経の観察						
7	局所の観察（皮膚、頭部、顔面、頸部、胸部）						
8	局所の観察（腹部、骨盤、四肢）各種病態のアルゴリズム、現場観察						
	定期筆記試験						

【 準備学習・時間外学習 】

--

【 使用テキスト 】

書籍名	著者名	出版社
救急救命士標準テキスト上巻		へるす出版

【 単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など） 】

終講時試験。履修規定に準じる。
